

7年ぶりに奉納された山門野地区  
のかね踊り（湯集落若宮神社）



# 伝承の舞で鎮魂を願う

## 由来

御八日踊りは、1565年3月、野田領主島津忠兼が、城川内の堂崎城主天草越前正を攻め滅ぼし、島津領としましたが、甥の出水領主島津義虎に同年旧暦7月8日、出水城で謀殺されました。その後、長島全土に悪疫が流行したので、島民はこれを忠兼のたたりとして、その霊を慰めるために、若宮神社に忠兼の御霊を祀り、毎年旧暦7月8日に大祭をして、踊りを奉納するようになりました。

## 8月8日 御八日踊り

本町の伝統行事である御八日踊りが8月8日、町内の神社に奉納されました。

この日は、各神社で神事が執り行われた後、各地区に伝承されているかね踊りや棒踊り、種子島踊り、かき踊り、手踊りなど多彩な舞が披露され、かねや太鼓の音が、町内一円に響き渡りました。

城川内の若宮神社では、正午から各地区の踊り子たちが次から次へと、汗だくになりながら勇壮な舞を披露し、観覧に訪れた地区民から、たくさん拍手が送られています。

山門野地区では、子どもや青壮年によるかね踊りが7年ぶりに奉納され、同地区の南方神社など8カ所、かねや太鼓を手に次々と隊形を変えていく活発な踊りを披露しました。このほか、鷹巣種子島踊り保存会は、同地区の八幡神社を皮切りに、町の商店街など最多の18会場を練り歩くなど、通りがかった町外者も車を止め、踊りに見入っていました。



薄井集落の手踊り（鷹巣の八幡神社）



唐隈郷土芸能保存会による棒踊り  
（城川内集落若宮神社）



鷹巣種子島踊り保存会の種子島踊り  
（鷹巣診療所前）



城川内郷土芸能保存会によるかね踊り  
（城川内集落若宮神社）